



JSQC ニュース

No.319

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス QMSの監査技術研究とISO9001の改正動向
- 2-私の提言 「Qの創造」を改めて考える、モノを造るから価値を生むへ
- 2-ルポルタージュ 第114回講演会（関西支部）ルポ
- 3-ルポルタージュ 第359回事業所見学会ルポ／第360回中部事業所見学会ルポ
- 4-総会告知／5月・6月の入会者紹介／論文募集／会費請求／行事案内

QMSの監査技術研究とISO9001の改正動向

QMS有効活用及び審査研究部会 部会長 福丸 典芳

1.第143回シンポジウムの概要

QMS有効活用及び審査研究部会は、「品質マネジメントシステムの監査技法の向上とISO 9001の活用」というテーマで、第4期研究活動の成果報告会を2012年7月21日に日科技連千駄ヶ谷本部において127名の参加者のもとで開催した。

今回は東京大学の飯塚先生から「MSS認証の社会的意義」について特別講演が行われ、この中で強調されたのが、「ISO9001認証のブランド価値向上」や「認証基準としてのQMSモデルの意義」であった。審査員として改めて考えさせられる内容であった。

第4期研究活動の途中経過を含む成果について、6つのWGから発表を行った。その中でも、WG1は適合性を証明する審査に関する研究として、JABとの共同研究を行っており、この研究成果に基づいて、第三者審査登録機関で試行実施した結果に関する3事例について発表を行った。この方法は、今後の審査のあり方の一つとして考慮すべき方法であるという結果であった。

これ以外の特徴としては、WG5とWG7が行っている研究活動結果に関して、JSQC規格化に向けた報告を行った。これは、今後の他の研究部会などへJSQC規格の開発推進に影響を与えるものと考えられる。

各WGの発表の後に質疑応答を行い、各課題に関して今後の検討課題も浮き彫りになった。今後は、これらの意見

を踏まえて研究活動を展開させる予定である。

2.QMS審査技術及び有効活用

本部会は2005年に設立し、今期で第4期研究活動を実施中である。部会員は現時点で145名であり、研究活動に常時参画しているメンバーは約50名程度である。今後はこの人数を増加させることが課題である。一方、その他の部会員は、シンポジウムへの参加や講演会などに参加しており、このような場で議論を行っている。

研究テーマは、リーダー会議、各WGの意見、およびシンポジウムでの意見・要望を参考にして決定している。なお、研究活動は原則として毎月1回土曜日の午後に行っている。これにより、WGメンバーがそれぞれの知見や経験をもとに議論を重ね、成果へとつなげている。

今期は次のテーマで活動を行っているが、一部第3期からの継続テーマも含まれている。

- WG1「適合性を証明する審査の研究2」
- WG2「WG1の研究内容の検証」
- WG3「ビジネスプロセスにおけるQMSの位置付け」
- WG4「経営に役立つ『自己適合宣言』の研究」
- WG5「次世代対応の第三者監査技法の研究」
- WG6「経営に貢献するISO9001 推進の研究2」

WG7「有効性を高める審査活動のための審査ツールの標準化」

今後はシンポジウムでの意見をもとに継続して研究活動を推進する予定である。研究成果のアウトプットは、研究成果報告書やJSQC規格として発行する予定である。また、JSQC規格として制定された場合には、規格制定説明会を開催する予定である。

3.ISO9001改正動向

ISO9001は、2011年10月15日～2012年3月15日の期間で行われた定期見直し投票の結果が「追補又は改正」となったので、作業グループを設置し、6月から追補又は改正作業が開始された。

マネジメントシステム規格における利用のための上位構造、共通の中核となるテキスト並びに共通用語及び中核となる定義が示されたISOガイド83の規格が制定されたことにより、これに基づいて改正作業が行われることになる。なお、改正目標時期は現時点では2015年としている。

これに伴って、ISO9000も改正作業が開始される。改正の主な内容は、ISO9000：2005以降に発行されたISO9000ファミリー規格の用語定義、ISO9004：2009の概念、及び改訂版の品質マネジメントの原則をISO9000に規定することになる。

2015年に向けた改正活動が行われるので、その内容については日本規格協会のホームページを確認して欲しい。

● 私の提言 ●

「Qの創造」を改めて考える、モノを造るから価値を生むへ

株式会社リコー NA事業部ECS事業センタ 事業戦略室 廣野 元久



私事で恐縮ですが、本社の品質部門を離れて、新規事業開発に従事して1年半が経過したところです。事業を起こす側から改めて「品質」を考えると、大きなパラダイムシフトをはっきりと感じます。それは、いままで経験した事がない恐怖の感覚です。表層的には、自由経済の破綻に起因する為替政策の二重遭難、世界各地で起きた大きな災害、中東紛争による燃料の高騰、急激に巨大化した新興国マーケット、等マクロ的な事柄が沢山連想できます。これらは、日本の製造業への痛手を加速させた要因であるにせよ、根源的な因子ではないと思います。

見逃せない点は、顧客が感じる価値

が大きく変化した事だと考えます。「所有」が価値と考えた個体的な閉じた社会から、「機能利用」が価値となるネットワークで繋がったグローバルに開かれた社会が始まっています（スマートフォンを使ったビジネスモデルが与えたイノベーションが最たる例でしょう）。モノだけでなく、解決手段、経験、映像、言葉、文字など自由に好きな時に好きな相手とシェアする事が可能な時代になったと実感します。顧客は、コストを掛けて新しい機器やサービスを必要以上に所有することに疲れを感じているのではないのでしょうか。

ところで、企業を評価するひとつの指標に、獲得した市場シェアがあります。大きなシェアを獲得するには、今までにない価値を提供し、且つ、優れた機能の製品を均一に安く、沢山提供することが必要です。国際競争時代

は、提供価値の寿命は短く、直ぐにコモディティ化します。大きなシェアを獲得するにはコモディティ化は避けられそうにありません。会社単位、或いは国単位で新たなビジネスモデルを構築する事が難しい時代と言われています。1社ですべてのバリュー・チェーンを賄うことができる時代ではなく、コモディティ化を生き抜くには徹底したコスト制御が必要です。関係の深い協力工場と一緒にあって、絶えざる改善を愚直に進めるよりも、国際的で巨大なEMS企業グループに生産のすべてを委託する方が、スケール効果があります。モノ造りの価値がスケール効果によるコスト抑制に移ってきていると感じます。

新しい時代の今こそ、ユニークで価値のある機能を提供し続ける事、それにはモノの提供に留まらず、クラウドを使った機能利用の品質と人が介在するサポートの品質を総合的に創り込むために、創り手・造り手・売り手、そして使い手の皆がネットワークで繋がれ、価値を享受できる、日本ならではの「Qの創造」こそが、働く人々、日本企業、日本市場を元気にする源ではないかと考えます。

第114回関西講演会
ルポ

組織力を高める、ミドルマネジメントのあり方とその育成

6月13日(水)、大阪大学中之島センターにおいて、関西支部主催の第114回講演会が標記のテーマで開催され、115名の参加者が熱心に聴講した。

講演①は、「組織力を高めるミドルマネジメント」と題して(株)ローランド・ベルガー取締役シニアパートナーの平井孝志氏にご講演を頂いた。群れを形成するためには、個々のボイド（鳥）に3つの行動指針があればよい。同様に、個々のミドルマネジャーには目標設定だけではなく、個人が行動する際の行動指針を与えなければ組織力は出ない。また、新入社員の配属先は、人手不足のところではなく、良きリーダーのいるところにせよ、など、組織力強化のための多くの有益な話を頂けた。

講演②は、「コーチングによる次世代リーダーの育成」

と題して、(株)コーチ・エィ専務取締役の桜井一紀氏にご講演を頂いた。講演は「名選手は名コーチか？」の問いかけに始まった。そして、コーチングには3つの原則があり、その中の「双方向のコミュニケーション」を中心に進行し、実際にボールを使った説明はコミュニケーションの重要性を再認識するものであった。併せて、クライアント数社での事例をお話し頂いた。

日本企業が立ち上がる幾多の難問に対応し、グローバルに生き残るためには、固有の戦略のもと全力投球で戦っていかなければならない。しかしながら、「組織のありよう」によって結果は大きく変わってしまう。両講演は相互に密接な関連を持つ中で、それぞれのお立場からユニークな口調で語っていただいた。

先進の考え方や具体的な取組みの方向性を学ぶ上で極めて有意義であり、トップマネジメントと実務者の間で日々苦闘しているミドルマネジメント層に、元気と勇気を与えて頂いた講演会であったといえよう。

松本 哲夫（ユニチ力(株)）

第359回 事業所見学会 ルポ

(株)崎陽軒 横浜工場

平成24年6月28日、横浜市都筑区にある(株)崎陽軒・横浜工場を訪問しました。当日の参加者は22名。この横浜工場では、2003年より、安心・安全な「シウマイ」の製造工程が見学できるようになり、2011年10月1日からは、「生月餅」の新発売にあわせて、これまでの見学では見られなかった「横濱月餅」や「生月餅」等の点心類の製造工程をライブ映像で見ることが出来るようになりました。

見学ではまずビデオで崎陽軒の歴史とシウマイや月餅の製造工程を学びます。崎陽軒は1908年の創業で元々シウマイ屋さんではなく、横浜駅構内で牛乳やサイダー、餅などの販売からスタートし、駅弁を販売するようになってから、関東大震災で工場が壊滅状態に見舞われました。その後、震災からの再起をかけて何とか目玉商品を

作ろうと考えた社長が、中華街で折り詰めにして提供されていたシウマイに目をつけました。シウマイはお弁当に入れても冷えてしまうと美味しくなることから“冷えても美味しいシウマイ”を作ろうと試行錯誤して完成したのが崎陽軒のシウマイとのことです。

ビデオ紹介の後、製造工程の見学に移りました。まずあらかじめ刻まれた豚肉、たまねぎ、ホタテの貝柱、グリーンピースをスパイスと混ぜ合わせた練り肉が運ばれ、成形機にてシウマイが完成し、蒸されたシウマイは急速冷却・箱詰めされて出荷されます。

見学が終わると、いよいよ試食タイムで昔ながらのシウマイと大きな特製シウマイ、さらに月餅も頂きました。出来立てのシウマイは美味しいですね～！

その後、活発な質疑応答にて非常に有意義な見学会が終了しました。

受け入れて頂いた崎陽軒横浜工場の皆様の今後の活躍に期待し、対応頂いた方々に心からお礼申し上げます。

佐藤 直人 (KYB(株))

第360回中部 事業所見学会 ルポ

愛知製鋼(株) 知多工場・鍛造工場

さる、平成24年7月2日(月)に第360回(中部支部91回)事業所見学会が、愛知製鋼(株)知多工場・鍛造工場(愛知県東海市)にて開催された。「愛知製鋼(鋼材・鍛造品)の品質改善活動」のテーマの下、22名が参加した。

愛知製鋼(株)は1940年(昭和15年)(株)豊田自動織機製作所の製鋼部門が分離、独立し、現在に至っている。95万平方メートルの広大な敷地を持つ工場自動車特殊鋼の鋼材や鍛造品を生産している。

見学に先立ち、TQM活動事例としてQCサークルとSQCテーマ活動の紹介があった。いずれの事例も自職場の困りごとを自らの手で解決していく事例であった。解決に当たり必要とあれば他部門とも連携をとり大きな成果をあげている所や、改善結果や良い活動プロセスをすぐに全社へ横展開し、効果をあげている点は、大いに

参考になった。

見学した広い構内は良く整理整頓されていた。鍛造工場では、工場内食堂にて日々の品質管理や不良対策の情報共有化に対する仕組みも見学することができた。圧延工程では、400mにもなる長大なラインを1200℃以上の鋼の丸棒が流れていく様は、工場内の熱気も加わって迫力あるものだった。その職場でのQCサークル等を活用した人材育成の仕組みがとても参考になった。

最後に訪れたブルーム連続鋳造機では、製品である鉄鋼だけでなく、冷却用の水にまで徹底した品質管理を行っていることに、少なからず驚いた。今回のような、重厚なラインでは設備の条件管理になりがちだが、人の育成に力を入れており、その結果として様々な改善効果がでているのは参加者にも大変参考になったと思う。

最後に愛知製鋼の皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容の提供と丁寧な説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

村松 孝浩 (トヨタ紡織(株))

第42回通常総会開催

(社)日本品質管理学会第42回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成24年10月27日(土) 9:30~10:40

場 所：コマツウェイ総合研修センタ (石川・小松)

2012年5月の 入会者紹介

2012年5月15日の理事会において、下記の通り正会員5名、準会員1名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....
(正会員5名) ○向田 嘉宏(島津製作所) ○嘉和知 靖之(武蔵野赤十字病院) ○上窪 均(KMI) ○亀山 嘉和(元・日本適合性認定協会) ○伊藤 実彦(アイシン・エイ・ダブリュ)

.....
(準会員1名) ○林 浩太(名古屋工業大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○東京エレクトロニ宮城

2012年6月の 入会者紹介

2012年6月13日の資格審査において、下記の通り正会員23名、準会員6名の入会が承認されました。

.....
(正会員23名) ○品川 洋一(曙ブレーキ工業) ○鈴木 哲雄(NSSLCサービス) ○渡辺 聖佳(オリエンタルランド) ○里 泰雄(ソニー) ○満山 弘(三菱電機) ○奥田 貢一(ダイセル) ○平林 正之(山陽特殊製鋼) ○小西 亨(トクセン工業) ○淡 賢太郎(富士通) ○横瀬 博文(リーダー電子) ○佐藤 健一(パナソニック) ○平間 健(フジクラ) ○菊岡 由美

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

子・中川 潤子(シャープ) ○梶村 達矢(船井電機) ○田中 慎司(クラブ技研) ○曾里 国永(杏雲堂病院) ○林 潤一郎(キヤノン電子) ○中野 充朗(京テック) ○来住南 和雄(マツダ) ○原田 尚之(三星ダイヤモンド工業) ○佐藤 和則(東芝) ○廣瀬 慎吾(カネカ)

.....
(準会員6名) ○坂本 一憲(早稲田大学) ○岡本 昌也・小林 翔平・ポーシン(東京大学) ○金 江霖・毛 正(九州産業大学)

第42年度会費請求のお知らせ

第42年度(2012年10月1日~2013年9月30日) 会費請求書を同封いたします。

郵便局自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。10月25日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

正 会 員：2370名
準 会 員：103名
賛助会員：158社213口
公共会員：22口

行 事 案 内

●第89回QCサロン(関西)

テーマ：プロジェクト・マネジメントの
実践(仮題)

ゲスト：持田信治氏(流通科学大学)

日 時：2012年10月25日(木)

19:00~20:30

会 場：中央電気倶楽部 5階513号室

参加費：1,000円(含軽食・当日払い)

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第42回年次大会・コマツウェイ総合 研修センタ(本部)

日 時：2012年10月26日(金)27日(土)

26日(金)15:00~17:00 事業所見学会A

コマツ 栗津工場

14:00~16:00 事業所見学会B

澁谷工業 本社工場(金沢)

18:00~20:00 年次大会懇親会

(ホテルサンルート小松)

27日(土)

9:30~10:40

通常総会/各賞授与式

10:40~11:40 新会長講演

中條武志氏(中央大学)

12:45~17:20 研究発表会

参加費:

見学会(26日)

会 員2,500円 非会員4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

懇親会(26日)

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,000円

研究発表会

会 員4,000円(締切後4,500円)

非会員8,000円(締切後8,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

申込締切：2012年10月17日(水)

申込方法:

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

日本規格協会 名古屋支部内

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org